



そしん

第40号



発行/社会福祉法人 素心会
 責任者/事務局長 片平 意司
 〒259-0103
 神奈川県中郡大磯町虫窪 39 番地 1
 TEL.0463-71-1255
 レイアウト・印刷 貴峯荘ワークピア



素心学院 全体旅行 山梨 石和温泉



十二月月上旬、富山県富山市にある「デイサービス」、「このゆびとーまれ」に実習に行ってきた。老人、児童、知的障害の方が過ごすここでは、とてもゆったりとした時間が流れていた。

様々な年齢層の方が利用されるここでは、赤ん坊が泣き出したりすると、利用者の老人がその子をあやしたり、知的障害の方がボランティアとして子供の面倒を見たりしていた。

その様子は、子供とのかかわりを通して利用者がそこでの生活を充足しているように見てとれた。

地域とのかかわり、ボランティアの活用など短い時間でも色々と考えさせられたが、何より人とのかわりの素晴らしさ、それが我々の仕事の原動力なのだと思確認できた三時間だった。

(素心デイセンター 石森)

虫窪24番地



後援会会員募集

○会員は個人一口、年1,000円から
 法人・団体一口、年10,000円から
 ○会員には、新聞「そしん」をお送りします。
 ○行事のご案内などをします。
 会費の納入先
 銀行振込は
 中南信用金庫本店 011-0350220

郵便振替はどこの郵便局でも
 00270-0-19507 です。

□座名は
 社会福祉法人素心会後援会
 会長 鈴野七郎
 ※新しく会員になる方はご住所を電話等でお知らせくださるようになります。
 事務局
 〒259-0103
 神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1
 素心会後援会
 TEL.0463-71-1255
 FAX.0463-73-0009

環境整備 おたすけ隊
 素心会後援会
 年末の恒例となりました後援会の環境整備活動。今年も裏山の擁壁部分の樹木の撤去作業を行いました。急な斜面での、チェーンソー片手に伐採作業及びゴミの分別等を行っていただきました。平均年齢六十歳の後援会役員の皆さんを筆頭に、総勢十一名で取り掛かりました。おかげさまで多目的棟の裏手に生い茂っていた樹木はきれいさっぱり撤去されました。ありがとうございました。ありがとうございました。



理事会・評議員会の動き

第七回評議員会

- 平成十八年五月二十日(土)
- 平成十七年度事業報告、
- 平成十七年度決算報告、
- 監事監査報告の後、事業報告と合わせ承認。
- 三 全員辞任に基づく理事及び監事の選任。

第一四五回理事会

- 平成十八年五月二十日(土)
- 平成十七年度事業報告、
- 平成十七年度決算報告、

第八回評議員会

- 平成十八年九月三十日(土)
- 一 目的変更を内容とする定款の一部変更を承認。
- 二 定年六十歳から六十五歳への変更等に伴う就業規則の一部改正を承認。
- 三 再雇用に関する規程の制定を承認。
- 四 運営規程の一部改正を承認。
- 五 グループホーム五か所所定員二十二人からグループホーム及びケアホーム四か所所定員二十六人への再編を承認。

第一四六回理事会

- 平成十八年九月三十日(土)
- 一 目的変更を内容とする定款の一部変更を承認。
- 二 定年六十歳から六十五歳への変更等に伴う就業規則の一部改正を承認。
- 三 再雇用に関する規程の制定を承認。
- 四 運営規程の一部改正を承認。
- 五 グループホーム五か所所定員二十二人からグループホーム及びケアホーム四か所所定員二十六人への再編を承認。
- 六 県指導監査による文書指摘事項に対する回答を承認。



「編集後記」

先日、知人とうどんの話をしていた、四国を一周した時の事を思い出した。金羅羅参りを皮切りに、四国の景勝地を巡る、懐かしかったが、とても充実した三日間だった。あの旅で食べた讃岐うどんの味が忘れられない。だって本当に美味しかったもん!!
 (広報委員 七田)

そしん会事業所アドレス		
素心学院	神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1 E-mail: gakuin@mh.scn-net.ne.jp	TEL. 0463 (71) 1255 FAX. 0463 (73) 0009
素心デイセンター	神奈川県中郡大磯町虫窪 18-1 E-mail: sosin-dc@mh.scn-net.ne.jp	TEL. 0463 (71) 1256 FAX. 0463 (71) 1284
さざんかホーム	神奈川県中郡大磯町国府本郷 1308	TEL.FAX. 0463 (61) 1519
かもめホーム	神奈川県中郡大磯町新富 1370-23 コープ KY2F	TEL.FAX. 0463 (61) 5404
つばきホーム	神奈川県中郡大磯町国府新富 482-1	TEL.FAX. 0463 (71) 0990
シーベルホーム	神奈川県中郡大磯町大磯 2232	TEL.FAX. 0463 (61) 5281
地域支援センター そしん	神奈川県中郡大磯町虫窪 18-1 E-mail: chiki-s@mh.scn-net.ne.jp	TEL. 0463 (70) 3577 FAX. 0463 (72) 2577



二日目は、昇仙峡車窓見学コースに参加しました。車窓見学ということでゆっくりと見ることはできませんでしたが、巨岩大石と紅葉に彩られた峡谷の美しさには圧倒されてしまいました。また、山道でカーブの連続だったので車酔いされてしまう方がいるのではと心配していましたが、昇仙峡へ向かう途中の車窓からは、きれいに染まった紅葉、遠くには雪化粧をした南アルプスの山々が見え、その美しい景色には利用者の方々も「きれい」「すこい」など、感嘆の声とともに感動されており、その景色の美しさの前

昇仙峡車窓見学コースに参加して



には車酔いの心配は無用でした。美しい景色を堪能された後は、二日目のメインイベントである中華バイキングの昼食。杏仁豆腐ばかりたくさん食べる方もいたり、みなさん自分の好きなものを思う存分に召し上がり、なによりも



その満足そうな表情が二日目のメインイベントであることが物語っていました。二日間とも好天に恵まれ、お腹いっぱいにしての帰り道ではウトウト…する方もチラホラ（職員も!?）六年ぶりとなった全体旅行は全体との交流を図ることができた旅になったのではないのでしょうか。（白嶺寮 川崎）

富士急ハイランドコースに参加して

るのでとは思っていませんでした。間違ってもジェットコースターのような激しい乗り物に乗らないだろうと考えていました。しかしそんな甘い考えは、もろくも崩れざりました。初めに乗る事になった乗り物がドドンパというジェットコースターになってしまったのです。時速170キロも出るという宣伝を思い出し、イヤ〜な汗が出てきたのですが、また自分は車イスを利用していている利用者の介助を行ってゐるのでもししたら無理ですと、断られるのではと、淡い期待をしていたのですが、富士急ハイランドのスタッフの対応はすばらしくジェットコースターの最前列に乗ることになってしまいました。それでも覚悟を決めて、出発の前の注意を聴きながら、利用者の介助をしていました。しかしそれも発車するまででした。いきなりの猛スピードに隣の利用者は大声を出して楽しんでる（？）というのに自分は声も出せずに、必死にバーにつかまっていただけでした。降りた後、利用者に楽しかったですか、と問い掛けると



（素宝寮 小川）

気に入ります。りんごを見ると、きつと今回のりんご狩りのことを思い出されることでしょうか。本当に楽しい時間でした。

特集

12月4日~5日



素心学院 全体旅行(珍)道中記



素心学院の利用者一番人気の行事、それはもちろん旅行です。その待ちに待った旅行が今回はなんと六年振りの全体旅行になりました。大型観光バス一台、マイクロバス三台、ワゴン車二台に利用者・職員総勢一〇八人が乗り込み、いざ石和温泉に出發です。車中はもちろん恒例のカラオケ大会で盛り上がります。残念ながら、観光バス以外はカラオケの設備は無いので、手拍子に合わせアカペラで歌います。またそれが一体感を増し皆の気分がどんどん弾んでいきました。そしてついに歓声があがります。「着いたあー」石和常磐ホテルに到着です。考えることは皆同じ、部屋で少し休み、めざしたのは旅行でのおいしい味、露天風呂です。お風呂の中は芋洗い化してしまいました。これもまた楽しい思い出となりました。メインイベントの宴会では、移転後初めて一つの部屋に全利用者（残念ながら参加できなかった二名の利用者を除いて）が顔を合わせました。料理とアルコールを楽しみ、にぎやかに歌い踊り笑顔が溢



れます。宴会後はフリートタイムとなり、飲み足りない方は第二ラウンドへ、ラーメンが好きな方はラーメン店へと一日目はあつという間に過ぎて行きました。（素宝寮 西垣）

りんご狩りコースに参加して



そして、バスに揺られながら一時間程、りんご農園に着、農園の方々は皆気さくな方ばかりで、まずは甘い蜜がたっぷりのりんごの試食で迎えられました。みんなりんご狩りを忘れてしまいうくらいに、りんごの試食に夢中になってしまいました。それほどおいしかったです。おなかいっぱいにして試食を食した後、いよいよりんご狩りを持って、みんなおいしそうなりんごを選ぶのに広い農園内を行ったり来たり、それでもあつと言う間にカゴはりんごでいっぱいになりました。一つのカゴにはりんごは九個までとの約束でしたが勢い余ってたくさんとってしまつた方も数人いたみたいでしたが農園の方のサービスでお土産としていただくことができました。いったいどれくらいか、りんごをもいで来たのか、学院に帰ってから確認しても数え切れない程でした。少し寒い中でしたが澄んだ空気の中で、みなさん笑顔が絶えませんでした。今回の旅行でも笑顔の数だけ皆さんの思い出を作られたことだと



（玉翠寮 熊澤）

素心デイセンター
家族ペンリ
（母）仁科とし子

こんには！
敏之は学校出てから、デイセンターへ通っています。彼は、自閉症傾向の子で、体重が百kg以上もある、巨漢のおアブさんです。デイセンターに通ってもう六年の月日が流れてしまっていました。
彼のデイセンターでの、エピソードをお話したいと思っています。

ある日、段ボールをつぶして、もたもたしていたので頭を使ってと言われたので本当に自分の頭でゴングンやっつけていたそうです。ある意味頭を使っていたんですねー！



たそうです。またある日の事、職員の方が、これを一緒に持って下さいと言うと、彼は、ウフフ…と言って聞えない振りをしたそうです。生意気な子です。でも彼は、段々家族以外で心を許す事ができるようになりました。お泊りの時もコンビニで、おやつを買って、ニコッと笑った顔がたまらなかったと職員の方に教えてもらいました。お泊りも彼は慣れてきたのになくなってしまい残念です。家でも私が留守をする時と妹に「あやちゃんココア作って下さい」とねだったりしているそうです。何か一歩一歩大人になってきている様です。

第十六回 心創展

二月七日〜十二日、平塚市立美術館市民アートギャラリーにて開催しました。今年には昨年より一日多く開催し、六日間で五百十人の方に来場していただきました。絵画、陶芸、書道の各クラブの作品を展示し、その中でも思わず笑みこぼれる作品や、ホーツと優しさを覚える作品、二十メートルのロール紙に描かれたとても迫力のある一枚の大作画など、どれもこれも魅力あふれるものばかりです。来場した方より「エネルギーに感動した」「エネルギッシュな造形に感動した。豊かな色彩に感激・嬉しい、楽しい気持ち伝わってきた」等、沢山の感想をいただきました。感動が伝わる作品が沢山展示されていてとても素敵な展示会でした。



（広報委員 山口）

こゆるぎの里 清掃作業にひまわり

九月、大磯にあります「社会福祉法人 大磯恒道会」様より今年新たに馬場地区において「特別養護老人ホームこゆるぎの里」が十一月に開所するので、その中の清掃業務委託を素心会で受けてもらえないかとお話があり、契約をさせていただきました。メンバーは現在六名で午前組と午後組に分かれて（二から三名ずつ）取り組んでいます。業務内容は、トイレ掃除や共有部分の廊下などのモップがけ、ペランタ掃除などです。デイセンター創設以来初めての外での仕事ですが、どうも不安でいっぱいでした。



「カーヤン」と言われた時が一番うれいですが、ネーこの怖い鬼の母なのに…昔さんに敏君の笑顔で、とってもいやされると言われてこれからもその笑顔が消えないで欲しいと思います。デイセンターの人達と楽しい時間を築いて欲しいですね。ありがとうございます。



地域支援センター そしん

素心会が、葉山で産声をあげた。今日では、地域の形々の声を支えるようにセンターを



平成十八年十二月二十四日、日ごろよりお世話になっている有限会社日成メンテナンス様より、クリスマスケーキの寄付をいただきました。大きないちごにみんな笑顔、笑顔、笑顔、笑顔、や紅茶などと一緒においしく食べました。ありがとうございました。



ありがとうございます

以前、学院と一緒に働いていた鈴野様よりバスタオルをたくさんいただきました。毎日の入浴や汗をかいたとき等いろいろなお場面で使用させていただいておりまして、バスタオルは、意外に消耗が激しく、寿命が短い物品です。ご助かりありがとうございます。ありがとうございます。



開設し相談事業を展開、ライフステージを見据え支援を連続性のあるものとしてつなげていくべく未就学児・小学生の児童アセスメント、中高生のタイムケア、共同生活援助等を行っています。

解決の糸口の見つけられない困難なことでも、その始まりと終わりにおいて誰も孤独にさせないこと、孤立することは新たな障害を作ることになるからです。「ゆりかごから墓場まで」と言われるように、どの場面でも、そしんに行けば何かがあると思われたいことを目指して！！

（課長 鈴木綾子）

が…そう思っているのは職員だけで、利用者さんは朝デイセンターに着くとすぐに清掃業務用のエプロンに身を包み、準備万端で待っている姿をみると、「いい刺激になっているんだな」とデイセンターの中だけで色々な色んなことに改めて興味をもっているんだなと思えました。これからも色々なことにチャレンジしていきたいと思っています。



（課長代理 鈴木淳也）

素心学院

父を三十年前に、その四年後に母も続けて病気で亡くしました。私達兄弟ですが変らずにあたたかい素心学院の関係の皆様のおかげでお世話になっております。弟の清二と、楽しく安心して過ごさせていたただいております。

（姉）宮倉ふじ子



弟は言葉が自分からはほとんどありませんが、いつも一方的に話しかける私をジッと見つめて聞いています。とても困ったような顔、美味しいものを食べている時の満足そうな顔、積み木を高く積み上げた時の得意そうな顔、大好きなお風呂あがりの気持ちのよさそうな顔などいろいろな弟の表情に私がホッとしたり、笑わせてもらったりしております。



でも先日、学院に伺った時に、壁一面に貼られた白嶺寮

の皆さんの何気ない日常を写した沢山の笑顔の写真、そしてその中にありました私がいままでに見たことも聞いたことも無い、弟のまるで大きな笑い声が聞えるような笑顔のあふれる写真を見て、心から学院に感謝申し上げますとともに、心からなんて幸せな弟なのでしょーと思えました。

